

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立東与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

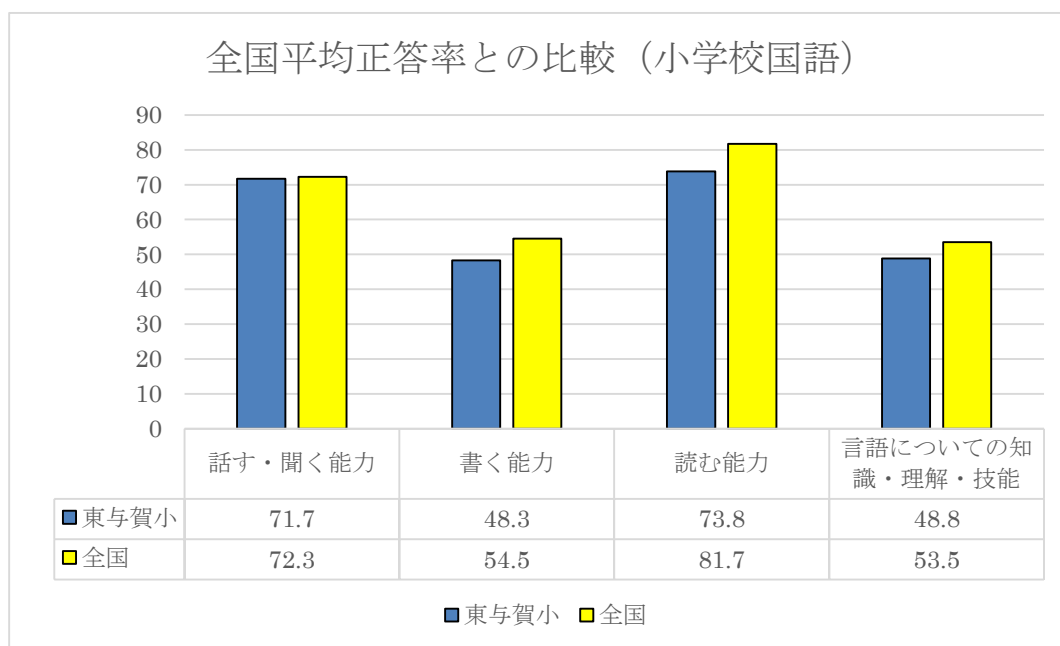
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・算数への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

4領域とも全国平均正答率を下回った。話す・聞く能力は、全国平均との差は 0.6 となり、全国平均との差が小さい。しかし、書く能力の差が 6.2、読む能力の差が 7.9 となっており、全国平均との差が大きかった。また、本校の結果の全体的な傾向は、全国の結果の傾向とほぼ同じになっていた。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「話す・聞く能力」は、伸びているが、「書く能力」「読む能力」に課題があることがわかった。特に、「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」「目的に応じて自分の考えを明確にしてまとめて書く」ことを苦手としている。また、「言語についての知識・理解・技能」にも課題が見られた。

そこで国語科の授業では、小単元で行われている漢字の学習や文や文章に関する学習で身に付けたことを使いこなす場として、3つの内容領域と関連付けながら単元の学習を創り上げる必要がある。あるいは、帯単元として言葉の力を育む時間を計画的に設定し、年間を通して確実に語彙を定着させるとともに、文や文章への理解を深める場を設ける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

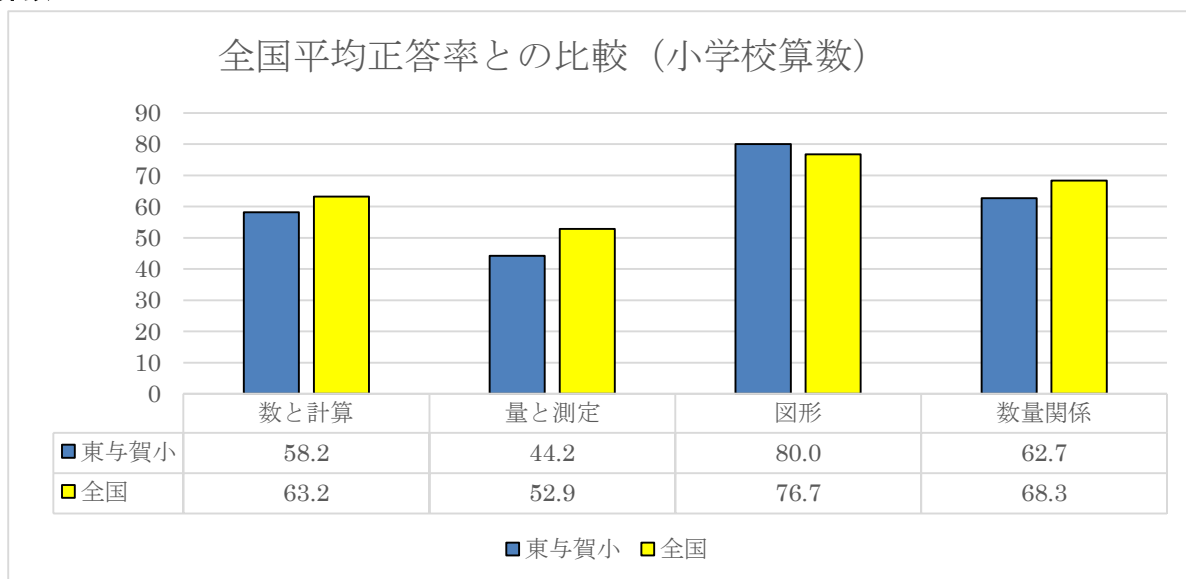
【学校では】

- 目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導をします。
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む指導を工夫します。
- 週 1 回の漢字小テストを確実に実施し、漢字を文中で正しく使う指導を工夫します。

【ご家庭では】

- 音読は国語の基礎力ですから、ご家庭で毎日聞いていただきたいと思います。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。前日よりも上手に読めるようになったら、褒めていただくと、お子さんのやる気につながります。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたりしてお互いの考えを交流することで、家庭の温かい仲間時間にしていただけると幸いです。

2 算数



(1) 結果

「図形」の領域は、全国平均正答率を上回り、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域で全国平均を下回った。中でも、「量と測定」の領域は、全国平均正答率との差が、8.7 となっており全国平均との差が大きかった。また、記述式の問題では、無回答が0%だった。

(2) 成果と課題

「図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができる」「棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができる」が本校の強みと考えられる。これは、細やかなノート指導や作図指導の成果と捉える。

「資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる」「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」が弱みと考えられる。記述問題では、説明内容が不足しており、3つの言葉を使うという条件なのに2つしか使うことができていない傾向が顕著にみられた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 全学級で授業導入時に、「計算タイム」を継続的に実施することにより、基礎・基本の四則計算の定着を目指します。
- 授業の途中には、児童が考えを交流する「よかよかタイム」を取り入れ、式、絵や図、具体的場面を使って考えたことを広げ深めていきます。
- T T少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけていただくと、お子さんのやる気につながります。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。生活場面で算数を使うように促してみましょう。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	東与賀小%	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	81.3	86.7
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	32.5	38.9
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	67.5	58.7
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか	50.0	50.1
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	38.8	30.1
学校のきまりを守っていますか。	42.5	46.7
人が困っているときは、進んで助けていますか。	60.0	40.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	85.0	85.0

「早起きする・挑戦する・進んで助ける」については全国平均を上回っている。また、「家の人と学校での出来事について話す」「いじめはいけないことだと思う」は、全国平均と同程度の結果だった。しかし、「早寝・朝ごはんの生活リズムを整える」「学校のきまりを守る」は全国平均を下回っているので、取組を工夫していく必要がある。

《家庭学習の様子》

調査の項目	東与賀小%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	45.0	33.1
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	7.5	12.4
「2時間以上、3時間より少ない」	22.5	16.9
「1時間以上、2時間より少ない」	47.5	36.8
「30分以上、1時間より少ない」	18.8	24.1
「30分より少ない」	2.5	7.6
「全くしない」	1.3	2.3
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	51.3	37.2

「家で自分で計画を立てて勉強している」児童は全国平均を上回っている。また、東与賀小のめあてである1時間の学習を達成できていない児童が2割程度いて、中には全く家庭学習をしていない児童もいた。かなり個人差が見られるので、「家庭での5つのめあて」をもとに、家庭学習を習慣化し、質や量をあげていくように、今後も継続して指導していきたい。なお、「地域の行事参加」の割合は、全国平均を上回っている。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して自学への意欲につなげていきます。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 小中連携の取組として、中学校のテスト期間に合わせて、ノーテレビ、ノーゲームデーを設定しています。
- 毎月、児童の心の状況をアンケート調査（〇月のころ）して、早期の問題把握や解決に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんが記録している「よかつこ家学・家読チャレンジカード」を見ていただき、「おうちの人から」の欄に、お子さんへの励まし、生活習慣や学習習慣をふり返っての一言をお願いします。
- 家庭団欒の時間には、学校生活やお子さんのよいところ、将来の目標や夢を積極的に話題にして、お子さんの自己肯定感を高めていきましょう。